Ａ－１　研究構想図

めざす児童像
①自分の考えを相手に伝わるように書ける子（言葉、図等）
②相違点・共通点を考えながら、聞いたり話したりできる子
③意見＋理由を言える子

研究主題
確かな「活用力」の育成
―子どもがつながる授業を通して―

本校の「活用力」のとらえ
①友達の考えや既習の知識・技能を活かす力
②相手を意識して書いたり話したりする力

研究仮説
学習過程において、「つながる」指導を行い、自分で考えたり、判断したり、自分の考えを明確に表現したりする力を育めば、「活用力」が育つだろう

つながる授業
①課題を共有している
②学習意欲がある
③子ども同士の話し合いがある
④教え合いが見られる
⑤学んだことを伝えている

「活用力」をつける学習過程
①共有《意欲がつながる》
・学習課題を作る(知る)
・情報を取り出す
②表出《課題とつながる》
・自分の考えの根拠を書く
・あらゆる方法で発表の準備をする
③つないで活かす《他へつながる》
《子ども同士がつながる》
・意見＋理由を使って話す
・いろんな方法を交流する
・共通点、相違点を確かめ合う
・１つにまとめられる言葉を選ぶ
・発信する
④まとめる《次時へつながる》
《自己へつながる》
・課題に対するまとめ
・次へ活かせるまとめ
・自己へつながるまとめ

ピアサポートの推進
(朝自習、授業)
・自己有用感の獲得
・学習意欲の向上
・基礎・基本の習得

辞書の活用
(常備、付箋の活用)
・情報、知識の獲得
・語彙の増加
・漢字の定着
・知的好奇心の喚起

マインドマップの活用
(作文、思考整理、発想)
・覚える力
・考える力
・整理する力
・長文や小論文を構想する力

授　業　研　究　部　会

模擬授業による指導案検討 → 研究授業 → 場面分析による授業整理会

実　践　部　会
・学級活動の充実
・学年間での教え合いの充実
・縦割り班活動の充実

連　携　部　会
・家庭との連携
・地域との連携

環　境　部　会
・学習環境の充実

子どもたちがつながっている学級づくり